No.27 たにがしらっ子だより

令和４年12月９日(金)
金丸恵美子

かかしっ子発表会によせて

先日のかかしっ子発表会のご参加、ありがとうございました。運動会から１ヶ月半での発表会。遊びが夏から秋に変わり、子ども達は試したいことや製作物なども大きな変化がありました。そんな、日常の遊びや活動の延長に行事があると考えれば練習漬けになることもなくゆったりと過ごせたように思います。それでも担任は日頃の遊びを発表するという形に持って行かないといけません。『どのように発表させるのか？』『5歳児(すみれ組)の劇は、どう表現するのか？』担任の悩みと試行錯誤があったようです。
平成２年に改定された保育所保育指針で環境による保育と言う言葉が良く出ていた時代。当時の私達保育士は、これまでの一斉的で指導的な活動や行事をどう捉えたら良いのか分かりませんでした。ただ研修会に参加した時に、講師の先生が、『行事の主役は子ども。子ども達の日頃を行事で披露する。保育士は子ども達を輝かせる演出家である』と言われたことを今でもはっきりと覚えています。
担任の「子ども達の発表や劇をどのように舞台で披露したら良いのか？」に対して『保育士は子ども達を輝かせる演出家なんだって！』と語り方でした。ただ、その演出は大人側の一方的な演出ではいけません。あくまで主役は子ども達。子どもの意見や何を見せたいのかをひとりひとりに聞き、話し合いをしたはずです。大人が考えたものを演じるのは、人形と同じ。子ども達は、小さいながらもはっきりとした意見を持っています。丁寧に聞けば、答えます。
この大人が子ども達に聞くことを繰り返すことが、自分の意見や気持ちを伝えたり、取捨選択できる能力が培われていくのだと思います。ただ、『どうしたいの？』と聞くことは、ひとりひとりに寄り添っていくことそのものだと思います。

かかしっこ発表会に寄せて②

子ども達の日常を主題にした当園の発表会は、ご覧になったように煌びやかなものは全くありません。毎日の遊びから見せたいもの、発表したいものをそれぞれが選びました。
発表会をご覧になったあるおばあちゃん(お若いのに失礼します)が、『やらされ感がないから安心して見ていられた』と言われたそうです。なによりのお褒めの言葉です。ありがとうございます。泥団子やあやとり、リリアン編みのマフラー、絵具や貼り絵のクリスマスツリー、ままごとやお医者さんなどの見立て遊びなど。子ども達が自分で決めたものはバラエティーに富んでいました。発表の時間は短かったですが、同じ舞台に立ち、泣いている子どもはいませんでした。そう言えば、子ども達の日常を発表するやり方に変えてから 3.4.5 歳児クラスで泣き出す子どもがいないことに気づきました。それは子ども達の日常との差が、ほとんどないからだと思います。着替えもなく出番も少ないことが、子ども達をバタバタさせないのです。これは、大人も同じです。担任がバタバタするとすぐに子ども達に影響が出ます。
私達が若かった頃。発表会ではなくお遊戯会でした。保育士が指導する劇、和装の踊りやかわいいあるいは、かっこ良い衣装を着た遊戯。曲目は流行りの歌などが主でした。職員は衣装や劇の小道具を作ったり…。確かに、そんなことが楽しかったです。そして保護者もまた、いつもと違う我が子の晴れ姿を喜ばれたものです。演じさせることや踊らせること、衣装や小道具に執着するあまり、私達は、子ども達のことを取り残していきました。そして働く自分達もまた、疲れてしまう。
先日、ひとりの保護者が「うちの子どもの時は、０歳児クラスも発表会に参加していたのになぜ今は、しないのですか」とたずねられました。「ゆったりとした毎日を壊さず安心して過ごして欲しいからです」と答えました。０歳児を舞台にのせるために、衣装を着せたり、動き出す子をじっとさせたり。そのためには舞台に慣れるために、何回か練習もしていました。当日は、勿論いつもと雰囲気が違うことを察知して泣いてしまう子どもがほとんどでした。
新規で入園される保護者には、0.1.2歳児の行事の考え方について説明をしております。ほとんどの方がご理解して下さりありがたく思っています。
今後も子どもが主役の日常を妨げない行事を心掛けていきたいと思います。